

# 山の生活



西谷の民家(伊藤朋子氏提供)

小松市の山間部旧新丸村は白山麓ろくの西谷地区と称されてきた。大日川ダム建設により小原は水没したが、その他の新保、花立、丸山の各ムラも急速に過疎化を余儀なくされた。この西谷の暮らしの文化、山村生活の民俗は貴重である。なかでも旧小原町の伊藤常次



旧小原村全景(伊藤朋子氏提供)

郎氏が集めた山村民具一万数千点の内、出産や育児、成人・婚姻・年祝い・葬墓などの用具約一八〇〇点余が小松市に寄贈され、昭和五十八年(一九八三)



旧小原町の焼畑光景

に国重要有形民俗文化財『白山麓西谷の人生儀礼用具及び民家』として指定された。これらは同じ白山麓でも旧白峰村な

ど奥山の本格的な出作り小屋における焼畑（薙畑）農耕文化といくぶん趣は異なるものの、古態をとどめたわが国でも貴重な山村生活の慣習や伝承文化を色濃く残してきた資料ばかりである。例えば、嫁が決して実家に戻らぬよう、草履のかかとに輪状のイバラの枝を付けたヨメドリゾオリ、婚礼の宴席で、若い男女がそれぞれの性器を模した藁製のツトとダオゾを引き合う儀礼用具などは、相当古くから伝わる農村世界特有の呪的用具である。

また太平洋戦争以前まではその

年の焼畑の収穫を祝うナギガエシという儀礼があり、これはジロアマボシを台にして中央に、白に約二対の杉の皮を巻き、その先端に焼畑で穫れた粟・稗・

黍の穂を茎ごと差し込んだ「輪蔵」を置くが、これは来年撒く種を飾り豊作を祈るためである。さらに山の神という熊の頭骸骨と大根・人参・牛蒡・山

芋・ガヤと栗の実の山の幸七品を並べて供え、親戚中が一同に会して酒を飲み、稗飯を食して祝うという珍しい収穫祭が伝えられてきた。（小林忠雄）



ヨメドリゾオリ(小松市立博物館所蔵)



ナギガエシ儀礼の輪蔵



ナギガエシ儀礼の会席(伊藤朋子氏提供)



ナギガエシ儀礼の祭壇(伊藤朋子氏提供)